第24回 生コンセミナー

テーマ

東北発　地域に合った生コンのあり方を考える
～復旧，復興，そして未来へ～

日時　7/12（水）　13:15～17:20（開場12:45）

会場　仙台国際センター 会議棟 2階「大ホール」

公益社団法人 日本コンクリート工学会
Japan Concrete Institute

第24回 生コンセミナー

東北発　地域に合った生コンのあり方を考える
～復旧，復興，そして未来へ

「公益社団法人　日本コンクリート工学会」は一昨年50周年を迎えました。また，コンクリート工学年次大会の付随行事として開催されてきた「生コンセミナー」は今回で24回目を迎えます。つまり，日本コンクリート工学会は半世紀を超え，生コンセミナーは四半世紀に迫る歴史を刻んでいます。この間，我が国では高度経済成長期に始まり，バブル経済とその崩壊を経て，現在は人口減少，少子高齢化社会を迎え，生コンおよびこれを用いたコンクリート構造物を取り巻く環境も劇的に変化してきています。

今回のセミナー開催地である仙台・東北地方は，ご存知の通り，6年前に東日本大震災に見舞われ，甚大な被害を受けました。コンクリート構造物の被害状況を見ると，地震に対しては一部構造物で大きな損傷を受けたものの，総じて軽微な損傷に留まりました。これは，阪神淡路大震災や中越地震などの教訓を経て，新たな耐震基準に従い新設コンクリート構造物を構築すると共に，耐震補強を進めてきた成果と言えます。一方，津波に対しては，木造建築に比べ，鉄筋コンクリート造の優位性が示された一方で，橋梁に関しては想定をはるかに上回る外力により，なすすべもなく流出する結果となりました。その後の震災からの復旧・復興において，生コン業界および建設業界が獅子奮迅の活躍をし，今日があることは周知の事実です。東北地方では復興の過程において，これまでのコンクリート構造物の造り方を見直し，その品質確保，耐久性確保を目指した動きが出ています。このような動きには生コンの品質確保が不可欠で，さらに建設地点における環境作用に応じた材料の選定，配合設計等，生コンに対する高度な技術も要求されます。さらに，こうした動きは東北地方のみならず，北陸地方や他の地方においても始まりつつあります。日本は南北に長く，太平洋側と日本海側で，環境作用や使われる材料も異なるため，地域の実状に合った生コンクリートおよびコンクリート構造物のあり方を考える必要が生じてきたのです。

以上の背景に鑑みて，年次大会実行委員会生コンセミナー部会では，この6年間を振り返り，東日本大震災からの復旧・復興に生コンおよびコンクリート業界が果たしてきた役割を整理すると共に，これからの社会構造を見据え，地域に合った生コンのあり方とこれを用いたコンクリート構造物の造り方について考えるセミナーを企画しました。

本セミナーでは，はじめに基調講演1として，東日本大震災の復旧・復興において，生コン業界がいかに対応してきたかについて，データに基づき小山田哲也氏より解説いただきます。次いで基調講演2として，東北地方に合った生コンを製造し，復興コンクリート構造物の品質確保・耐久性確保をもたらした取り組みについて遠藤雅司氏より紹介いただきます。さらに基調講演3では，他地方の好例として，アルカリシリカ反応が顕在化する北陸地方において，その対策を進めるため，フライアッシュを用いた生コンの標準化に尽力されている鳥居和之氏より講演いただきます。次に，パネルディスカッションへの導入として，岩手県及び宮城県の生コン生産者，施工により品質確保・耐久性確保を目指す施工者，首都圏の建築コンクリート構造物の事情に精通した学識経験者より，地域に合った生コンの事例について話題提供をいただきます。これらの話題提供を踏まえ，地域に合った生コンの将来像と，各地にこうした生コンを普及させ，コンクリート構造物の品質確保・耐久性確保を図る方策について，阪田憲次氏のコーディネートの下，基調講演者，話題提供者に登壇いただき，パネルディスカッションを展開します。ここでは，生コン業界および建設業界を取り巻く様々な境界条件の中で，産学官が連携し，どうすれば各地でコンクリート構造物の品質確保・耐久性確保が実現するかについて議論がなされます。

本セミナーの成果が，東日本大震災による甚大な被害を受けた仙台・東北地方から発信され，他地方に広がる機会になって頂ければと思っております。是非，生コンクリートに関係する多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

コンクリート工学年次大会2017（仙台）
実行委員会委員長　　鈴木　基行
生コンセミナー部会長　岩城　一郎

第24回 生コンセミナープログラム

司会　奈良　裕（生コンセミナー部会幹事　青森県コンクリート診断士会）

1. 開会挨拶および趣旨説明

岩城　一郎（生コンセミナー部会長　日本大学）……13：15～13：30

2. 基調講演

(1) 震災復旧・復興における生コン業界の対応
小山田　哲也（生コンセミナー部会委員　岩手大学）……13：30～13：50

(2) 復興コンクリート構造物の品質確保・耐久性確保に向けた取り組み
遠藤　雅司（国土交通省東北地方整備局）……13：50～14：15

(3) 北陸地方におけるフライアッシュ生コンの標準化に向けた取り組み
鳥居　和之（金沢大学）……14：15～14：55

＜休憩＞……14：55～15：15

3. パネルディスカッション「地域に合った生コンのあり方を考える」

話題提供……15：15～15：45

(1) 凍結防止剤散布下におけるコンクリート構造物の高耐久化を目指した研究事例
……高橋　正夫（宮城県生コン工組）

(2) 厳しい凍害環境下におけるコンクリート構造物の高耐久化を目指した取り組み
……袴田　豊（生コンセミナー部会委員　岩手県生コン工組）

(3) 施工者から見たコンクリート構造物の品質確保・耐久性確保
……坂田　昇（鹿島建設）

(4) 首都圏における建築コンクリート構造物の動向に関する話題提供
……中田　善久（日本大学）

討論会……15：45～17：15

コーディネータ：阪田憲次（岡山大学名誉教授）

パネリスト：鳥居和之（前掲），遠藤雅司（前掲），高橋正夫（前掲），袴田　豊（前掲），
坂田　昇（前掲），中田善久（前掲）

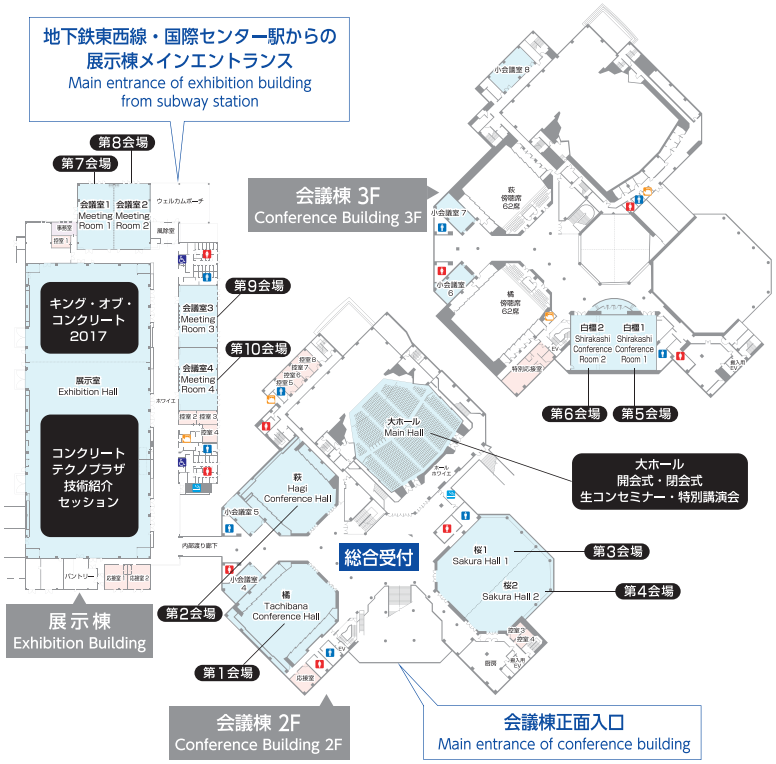
4. 総括

阪田憲次（前掲）……17：15～17：20

会場案内図

仙台国際センター　会議棟2階「大ホール」

〒980-0856　仙台市青葉区青葉山無番地



参加費

3,000円

＊年次大会参加者は、参加費無料ならびに申込不要です。
＊当日お申込みする場合は、仙台国際センター　会議棟2階ロビーの「大会総合受付」までお越し下さい。

交通のご案内と会場周辺の地図

連絡先　公益社団法人日本コンクリート工学会・学術課　担当：戸口
電　話：(03) 3263-1571　　FAX：(03) 3263-2115　　E-mail：jcinenji@jci-net.or.jp